8. 世界史を楽しむ科 (2025年度) 全体テーマ：移動と交流

【木曜日 授業予定表】 講師：大阪大学 同志社大学 岡山大学 他

				午前			午後			
回	月	日	曜日	講座数	テーマ	内容	講師名	自主活動	内容	
1	7	月	①	①入学式 & オリエンテーション (合同、大阪国際会議場)						
2	4	17	木	1	オリエンテーション 人類の拡散と海	世界史のコンセプト (考え方) モンゴロイドの「大航海時代」	向正樹 (同志社大学教授) 富田暁 (岡山大学客員 研究員)	自己紹介、年間学習・行事予定等の説明 クラスオリエンテーション 班役割分担説明 班ごと自己紹介		
3		24	木	2	海のシルクロード	モンソーンが繋ぐ世界	富田暁 (岡山大学客員研究員)	高大オリエンテーション クラス自己紹介 各班担当・班長決定		
4	8	木	3	3	ギリシャ・ヘレニズム	アレクサンドロスの先駆者と、影を追う王たち	柴田広志 (佛敎大学非常勤講師)	仲間づくり	クラス委員長決定、各担当別会議 (代表者決定)	
5	5	15	木	4	東西ローマ世界	多神教から一神教に変容する地中海世界	柴田広志 (佛敎大学非常勤講師)	"	6/12遠足第1回行先検討会	
6	7	22	木	5/6	東アジアのなかの古代朝鮮	「中華」の誕生と古代朝鮮	赤羽奈津子 (龍谷大学非常勤講師)	②社会への参加活動 (準備活動) (活動事例研究)		
8	5	木	6	6	★校外学習： 東アジアの仏教	仏教の来た道—インド・中国・朝鮮・	赤羽奈津子 (龍谷大学非常勤講師)	龍谷大学		
9	6	12	木	③	★ ③遠足					
10		19	木	7	唐とシルクロード	唐帝国の本当の「強さ」とは?	猪原達生 (同志社大学嘱託講師)	講師交流会	講師と受講生の交流・普段聞けなかったことを聞く	
11	3	木	8	8	東部ユーラシア世界の展開	共存と繁栄の時代	遠藤総史 (中央研究院歴史 語言研究所博士後研究学者)	イベント対応	健康まつり説明 参加対応検討	
12	7	10	木	9	遊牧民と中央ユーラシア	草原世界の暮らしと古代遊牧国家	旗手暉 (同志社大学非常勤講師)	"	フェスタ概要説明・クラス発表区分 (展示・演芸) 検討	
13		17	木	10	モンゴル帝国	モンゴルは、いかに世界帝国を作り上げたか	旗手暉 (同志社大学非常勤講師)	1学期の成果発表	各班ごとに活動内容、フェスタに向けての取り組み等	
8				夏 休 み						
14	9	18	木	11	ヨーロッパの中世以降の文化の潮流と社会的背景	西欧文化主体の移動	石坂尚武 (同志社大学名誉教授)	イベント対応	コーダイフェスタ発表内容検討	
15		25	木	12	★校外学習： 大航海時代	そのときインドは何してたん?	向正樹 (同志社大学教授)	同志社大学		
16		2	木	13	初期グローバル化と近世	ベストから見る近世	石坂尚武 (同志社大学名誉教授)	イベント対応	健康まつり参加準備・コーダイフェスタ発表準備	
17		7	火	④	④コーダイ健康まつり (堺市金岡公園体育館)					
18	10	16	木	14	東南アジアの近世	交易の時代と「伝統」東南アジアの成立	遠藤総史 (中央研究院歴史 語言研究所博士後研究学者)	イベント対応	コーダイフェスタ発表準備	
19		23	木	15	東アジアの近世	「大きな中国」か、「小さな中国」か	猪原達生 (同志社大学嘱託講師)	イベント対応	" "	
20	6	木	16	16	イスラームの成立と発展1	新しい世界の形成—共同体から帝国へ—	堀井優 (同志社大学教授)	"	コーダイフェスタ発表準備仕上げ	
21	11	13	木	17	イスラームの成立と発展	再編される世界—オスマン帝国とアラブ地域—	堀井優 (同志社大学教授)	活動テーマ検討	自主活動テーマ検討	
22		19	水	⑤	⑤高大フェスタ (豊中市立文化芸術センター)					
23		27	木	18	自主企画講座			活動テーマ検討	班別活動テーマ検討	
24	4	木	19	19	東アジア海上世界の形成	中国の経済発展、社会変化との構造的関係	濱島敦俊 (大阪大学名誉教授)	"	" "	
25	12	11	木	20	東アジアのなかの台湾	東アジア海上世界形成の一つの果実	濱島敦俊 (大阪大学名誉教授)	"	" "	
26		18	木	21	東南アジアの植民地化	宗主国は植民地に「良いこと」もした (残した) のか?	富田暁 (岡山大学客員研究員)	活動テーマ発表	" "	
				冬 休 み						
27	1	15	木	22	19世紀末の世界史における分岐点	①社会革命 (=フランス革命) ②経済革命 (=産業革命)	杉本宗子 (神戸大学)	成果発表会対応	成果発表会内容検討	
28		22	木	⑥	⑥社会への参加活動・・・ (仮日程；1学期～3学期の間に活動日を1回設定)					
29		29	木	23	ヨーロッパ諸国の革命運動から誕生した新しい政治秩序	①国境変更と新しい統一形成 ②現在ロシアがウクライナを侵攻する鍵をクリミア戦争から推測	杉本宗子 (神戸大学)	成果発表会対応	成果発表会準備	
30	5	木	24	24	アメリカ合衆国の誕生	植民地から覇権国への道のり	安井倫子 (大阪大学)	"	成果発表会準備	
31	2	19	木	25	グローバル化の中で	移動する人・もの・情報を管理したい国家	安井倫子 (大阪大学)	"	成果発表会準備	
32		26	木	26	学習成果発表会		向正樹 (同志社大学教授)			
33				⑦	⑦修了式					
34	3	5	木	⑧	⑧・⑨卒業旅行 (1泊2日)					
35		6	金	⑨						
授 業 (自主企画、成果発表会含む)					26 (講座数列 1～26)				2025. 4. 3	
学 習 事 業 (① ～ ⑨)					9 (講座数列 ①～⑨)					
合 計					35					

注) 1. 日程、カリキュラム内容等は、都合により変更になる場合があります。